

む つ こくぶんじ こくぶんじ ひがし
陸奥国分寺跡、国分寺東遺跡ほか

仙台市教育委員会 関根章義

所在地 宮城県仙台市若林区木ノ下
立地環境 仙台中町段丘の東端、標高 13～15 m の
河岸段丘
発見遺構 礎石建物、基壇、掘立柱建物、築地塀、
堅穴建物、堅穴遺構、大溝、土坑、鋳造
関連遺構
年代 8 世紀中頃～10 世紀

遺跡の概要

仙台市街地中心部の東半部、広瀬川によって形成された河岸段丘の東端に立地している（第 1 図）。陸奥国分寺跡の南にある南小泉遺跡では堅穴建物等が多数検出されており、仙台平野における古墳時代中期以降の有力な集落の存在が考えられる。また、陸奥国分寺跡の東側に隣接して国分寺東遺跡と薬師堂東遺跡が位置し、平安時代初め頃（9 世紀）の堅穴建物が検出されていることから、陸奥国分寺に関連する集落と考えられる。

陸奥国分寺跡は、古代律令制下の陸奥国府である多賀城の西南約 10km に位置し、大正 11 年（1922）に国史跡の指定を受けている。天平 13 年（741）聖武天皇の勅願により全国に建立された国分寺のうちで最も北に位置する。昭和 30 年（1955）から昭和 34 年（1959）にかけて学術調査が行われ、昭和 47 年（1972）以降は史跡整備のための調査が行われている。これらの発掘調査により、主要な伽藍の配置や規模が明らかになり、北辺は明らかではないが、周囲を築地塀で囲み、内部は南大門、中門、金堂、講堂、鐘楼、経楼、塔等を配した大規模な伽藍を持つ寺院であったことが明らかになった（第 2 図）。また、貞観 11 年（869）の地震後、陸奥国分寺跡で大規模な改修が行われたことが出土遺物などから判明している。その後、17 世紀初頭には伊達政宗によって陸奥国分寺が再興され、南大門には仁王門が、講堂には薬師堂が建立された。そのうち、薬師堂は国指定有形文化財に指定されている。

1. 立地・地形

仙台市街東側の、広瀬川によって形成された自然堤防上に位置し、七北田川と広瀬川に挟まれた仙台中町段丘の東端に立地する。遺跡の西方には構造線（長町ー利府断層）があり、そこを境に、西側に丘陵や段丘、東側に宮城野海岸平野が広がっている。陸奥国分寺跡はこの構造線に近い標高 14～16 m の平野に立地している。

2. 規模・平面形

これまでの発掘調査成果から、東西は、検出された築地塀から、242 m（800 尺）であり、南北も、遺構の広がりから、それ以上の規模を持つと推定される。また、築地塀の外側には大溝が巡っており、



第 1 図 陸奥国分寺跡の位置

大溝を基準とすると、東西は 250 m となり、南北は 32 次調査で検出された溝を寺域の北辺とすると 271 m となる（第 2 図）。

陸奥国分寺跡の平面形は、北辺が明確になっていないため不明であるが、これまでの調査成果から、南北にやや長い方形と考えられる。

3. 区画施設

これまでの発掘調査で、東・西・南辺で築地塀とその外側に大溝が巡っていることが確認されている。

南辺では築地塀本体と掘込地業、大溝が確認されている（第 4 図）。検出された南辺築地塀の本体は、基底幅が約 3 m で黄色土と黒色土の版築で構築されている。大溝は上端幅が約 2 m、深さは約 40 cm で、築地塀とは約 2 m 離れている。築地塀の周辺では多量の瓦が出土しており、瓦葺きと推定される。西辺では柱列が検出されており、築地塀両側にみられる寄柱もしくは構築時に使用された横板を押さえる柱穴の可能性がある。柱穴は直径 20 ～ 30 cm の円形で、275 ～ 350 cm とやや不揃いな感覚で並んでいる。その西側には、約 3 m 離れて平行する溝が検出されている。東辺では、東門の北側に接続する築地塀が検出されている（第 7 図）。築地塀は掘込地業が確認されており、幅が約 3.2 m で、寄柱と考えられるピットも上面で検出されている。また、東に約 2.5 m 離れた位置では溝が検出されている。北辺ではこれまでの調査で築地塀は確認されていないが、平成 18 年（2006）の 27 次調査と令和 4 年（2022）の 32 次調査で検出されている溝が、寺域の北辺を示す溝の可能性がある（第 8 図）。

4. 中心施設

陸奥国分寺跡の内部は、昭和 30 ～ 34 年（1955 ～ 1959）にかけて行われた学術調査で、その規模と伽藍の概要が判明している。伽藍は、南から南大門、中門、金堂、講堂、僧坊が南北中軸線上に並ぶ東大寺式伽藍で、中門と金堂は複廊式の廻廊で結ばれ、鐘楼、経楼、塔等を配した大規模な伽藍であったことが調査で分かっている（第 2 図）。

【南大門】

現在の陸奥国分寺仁王門の位置にあたる。昭和 31 年（1956）の発掘調査で南大門の基壇と礎石の根石が確認され、大きさは桁行東西 3 間（10.10 m）、梁行南北 2 間（7.13 m）の瓦葺きの八脚門と推定される（第 3 図）。平成 20 年（2008）の 29 次調査で、仁王門の基壇の外側に版築の広がり確認されたことから、南大門の基壇は東西 19 m、南北 16 m の範囲と推定され、門の桁行が 5 間の可能性が指摘されている。

【中門】

南大門の北 27.3 m に位置する。昭和 31 年（1956）の発掘調査で基壇と礎石の根石が確認された。桁行東西 5 間（18.0 m）、梁行南北 2 間（7.2 m）の五間門と推定される（第 9 図）。基壇は側石や地覆石などは確認されておらず、その規模は不明である。また中門の東西に廻廊が接続する。礎石と根石が確認されており、この廻廊は瓦葺きの複廊であったと考えられる。

【金堂】

中門の北 53.3 m に位置する。昭和 30 年（1955）の発掘調査で基壇と礎石、礎石の根石が確認された。金堂は桁行東西 7 間（24.65 m）、梁行南北 4 間（13.06 m）の礎石建物で、四面廂建物と推定される（第 9 図）。基壇の規模は東西 31 m、南北 19 m で、高さは 90 cm である。基壇の周りには凝灰岩切石の側石と地覆石が確認されている。金堂の東西に廻廊が延び、中門から延びる廻廊と接続する。

【講堂】

金堂の北 42.1 m に位置し、現在の陸奥国分寺薬師堂の位置にあたる。桁行東西 7 間、梁行南北 4

間の四面廂建物と推定される。基壇の規模は東西 34 m、南北 20 mで凝灰岩切石の側石が確認されている。講堂の中央部では階段の踏石の一部と考えられる凝灰岩の板石が見つっている。講堂の北側中央では僧坊に向かう軒廊が見つっている。

【鐘楼・経楼】

鐘楼と経楼はそれぞれ金堂と講堂の間にあり、伽藍中心線を対称に東側で鐘楼が、西側で経楼が検出されている。礎石と根石が確認されており、桁行南北 3 間、梁行東西 2 間の総柱建物である。基壇は確認されていない。

【塔】

塔は金堂の東 83.32 mに位置する。基壇は正方形で規模は一辺が約 16.0 m、高さは 1.2 mである(第 5 図)。基壇の周りには凝灰岩切石の側石と地覆石が、基壇の上面の一部には凝灰岩の敷石が確認されている。基壇の中央には心礎と 10 個の礎石が確認されている。塔は承平 4 年(934)の落雷で焼失した記録が残っており、塔北側では相輪の擦管が逆さまに地中に刺さって出土している。塔を囲むように廻廊が確認されている。根石などの検出状況から瓦葺きの単廊であったと考えられる。

【東門】

伽藍の中軸線から約 121.2 m東側に位置する。昭和 55 年(1980)の調査で基壇が確認された。基壇の規模は、東西 9.15 m、南北 9.35 mで、礎石立ちの八脚門と推定される(第 7 図)。門の北側には東辺築地塀が接続することが確認されており、築地塀の基礎が東門で途切れることなく南北に通っている。

【僧房】

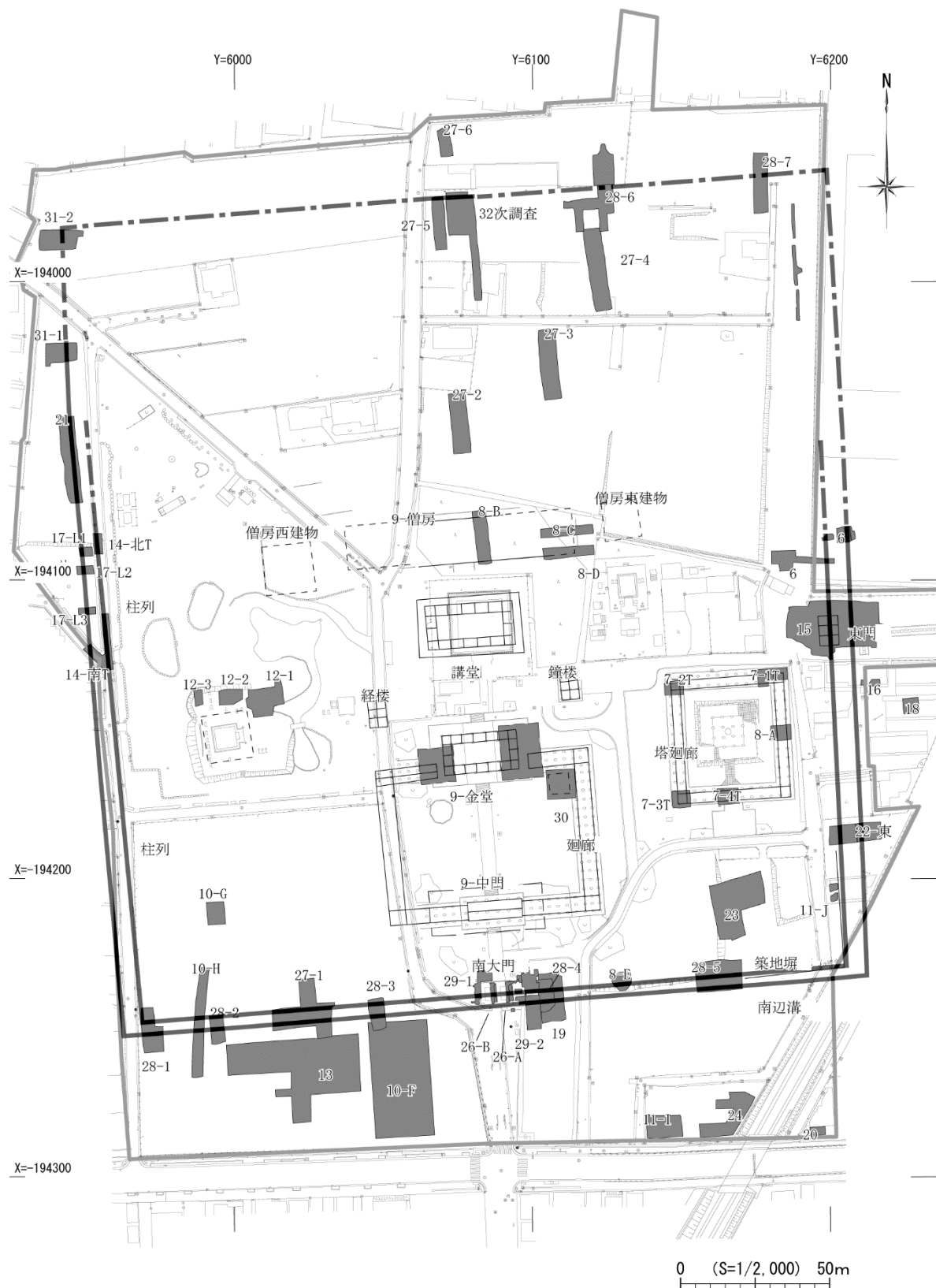
講堂の北端から約 11.7 m北側に位置する。基壇を持つ礎石建物と推定され、南側には講堂から続く軒廊が接続する(第 6 図)。昭和 48・49 年(1973・1974)の調査で、基壇の整地層が 4 面確認され、最下層から掘立柱建物の柱穴が 2 基検出されたことから、僧坊が掘立柱建物から礎石建物へ変遷した可能性が想定される。

5. その他の施設

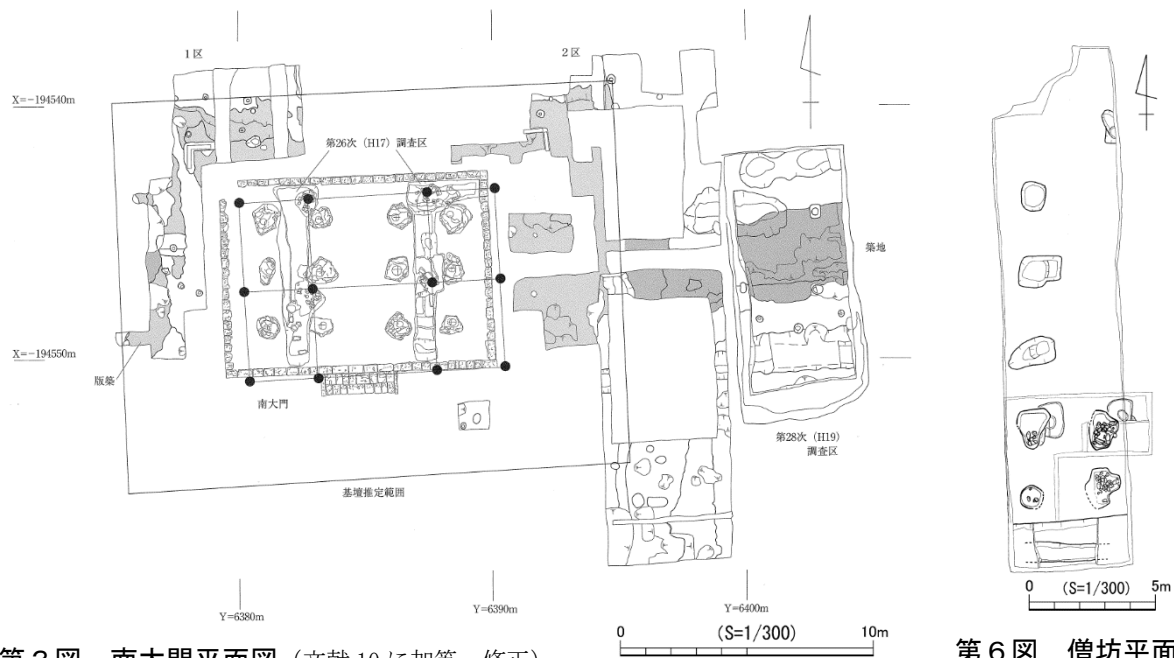
国分寺東遺跡では、9 世紀の堅穴建物が検出されており、「講院」、「佛」など寺院に関連する文字が墨書されたロクロ土師器坏と須恵器坏が出土している。薬師堂東遺跡でも、平安時代の堅穴建物が検出されており、陸奥国分寺に関わる居住域が、隣接する場所に存在していたことを示している。また、薬師堂東遺跡では、貞観 11 年(869)地震後の改修にかかわる可能性がある、9 世紀後半の梵鐘鑄造遺構が検出されており(第 10 図)、梵鐘の龍頭等の鑄型が出土している(第 12 図)。

関連文献

- 1 陸奥国分寺跡発掘調査委員会 1961『陸奥国分寺跡』
- 2 仙台市教育委員会 1981『史跡陸奥国分寺跡 昭和 55 年度環境整備予備調査概報 東門跡』仙台市文化財調査報告書第 27 集
- 3 仙台市教育委員会 1984『史跡陸奥国分寺跡 昭和 58 年度環境整備予備調査概報 南大門跡東脇築地跡』仙台市文化財調査報告書第 63 集
- 4 仙台市教育委員会 2003『国分寺東遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 266 集
- 5～7 仙台市教育委員会 2007・2008・2023『郡山遺跡 27・28・43』仙台市文化財調査報告書第 307・328・507 集
- 8 仙台市教育委員会 2014『宮城県仙台市史跡陸奥国分寺跡－昭和 46～50・53・54 年度発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第 430 集

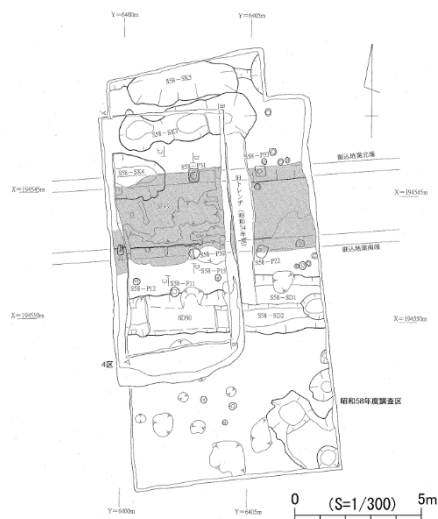


第2図 陸奥国分寺跡全体図（文献7に加筆）

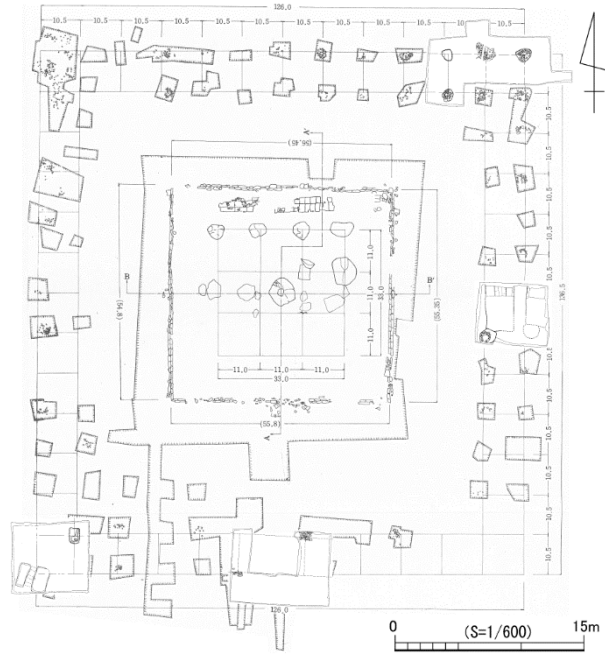


第3図 南大門平面図 (文献10に加筆・修正)

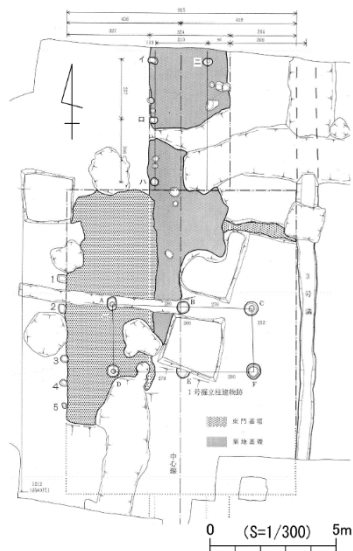
第6図 僧坊平面図 (文献8から作成)



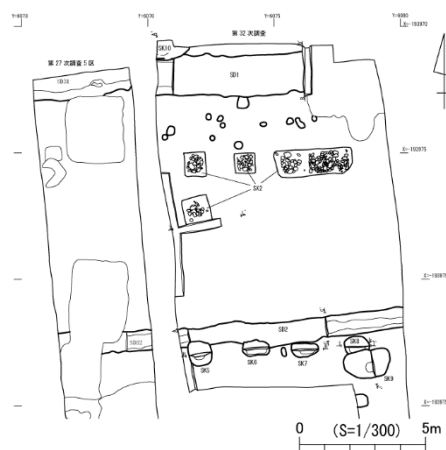
第4図 南辺築地・大溝平面図 (文献10に加筆・修正)



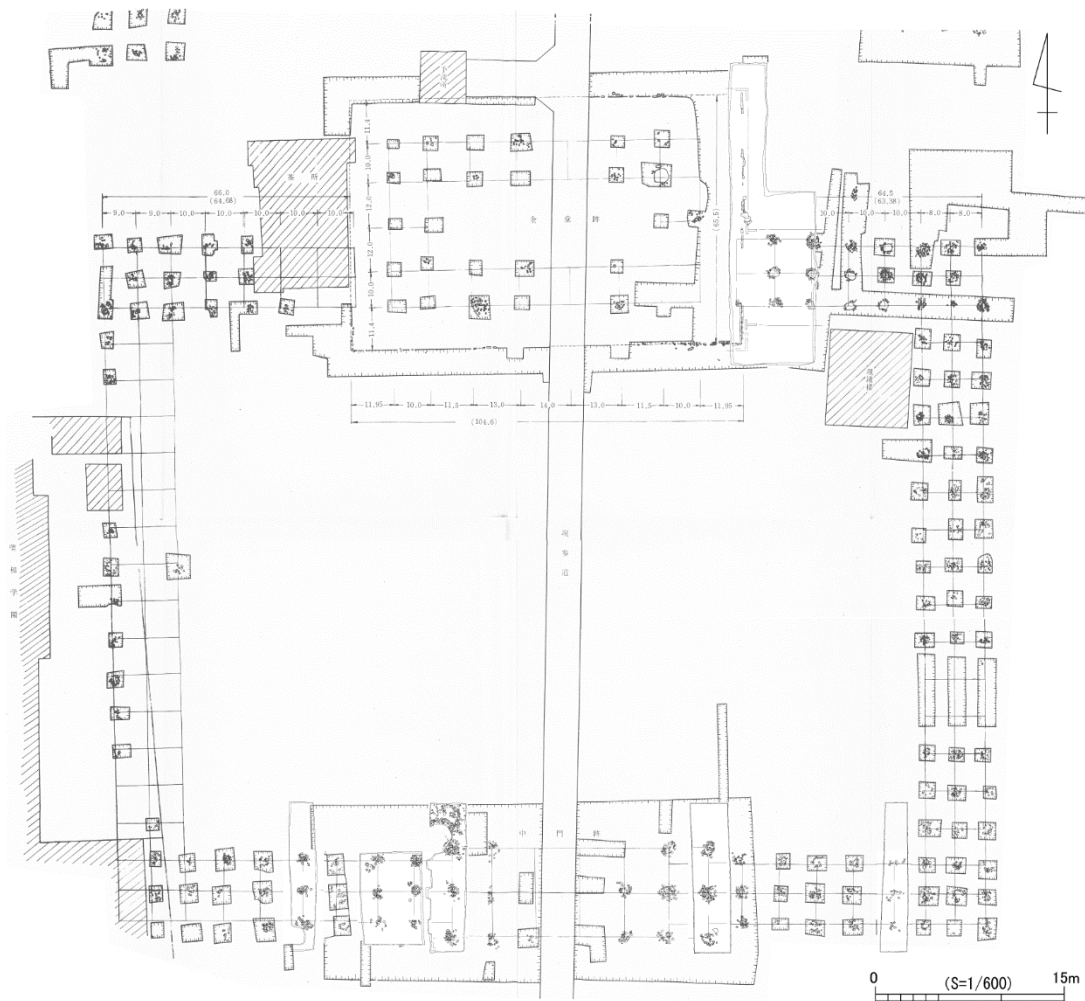
第5図 塔平面図 (文献1に加筆・修正)



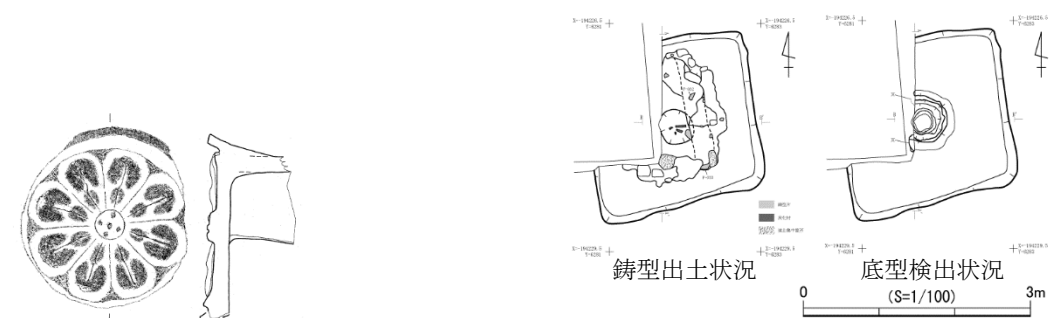
第7図 東門平面図 (文献2に加筆・修正)



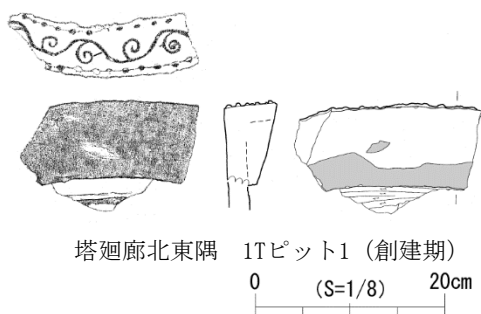
第8図 北辺溝平面図 (文献7から作成)



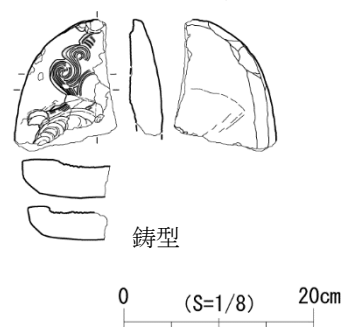
第9図 中門・金堂平面図（文献1に加筆・修正）



第10図 薬師堂東遺跡梵鐘鑄造遺構平面図
（文献9から作成）



第11図 陸奥国分寺跡出土遺物（文献8から作成）



第12図 薬師堂東遺跡出土遺物
（文献9から作成）